

論理思考、記述力向上

日本NIE学会の第15回大会が11月24、25の両日、鹿児島市の鹿児島大で開かれた。「資質・能力の育成とNIE」をテーマに全国の研究者、教員たちがそれぞれの取り組みを発表。NIEの果たすべき役割について意見を交わした。24日に行われたシンポジウムと、25日の研究分科会での地元研究者の発表を紹介する。(大石哲也、黒崎平雄)

鹿児島で日本NIE学会大会

シンポジウムでは、鹿児島 実践授業の成果についての島大の溝口和宏教授、原田 義則准教授、田口紘子准教授が登壇。鹿児島県内の小中学校が実施したNIEの

「効果実感」 実践報告



NIE実践の成果について意見が交わされたシンポジウム＝11月24日

田准教授。川内中央中(同県薩摩川内市)で行った事前調査で、生徒が情報の「収集」と「整理」を苦手としている点に着目、同校教諭と連携して約8カ月にわたる新聞作りの授業を企画した。

その後、生徒に同県の学習者調査(国語)の過去問題を受けさせたところ、正答率が県平均を17ポイント上回る結果に。「新聞作りを通して論理的思考力や記述力が向上したと考えられる」と話した。

溝口教授は、社会問題に関する記事の読み比べを実践した中学校における生徒の関心の広がりや調査し、田口准教授は、新聞の「見出し」に着目した調査問題を活用して小学校でのNIEの効果を検証。それぞれに「一定の成果があった」と報告する一方、検証方法の在り方や記事を自由に閲覧できるデータベース活用などの環境整備といった課題も指摘した。

小原友行氏(福山大教授)

学習深化へ記者体験

新聞は思考力、判断力、表現力を育成する絶好の教材。主体的、対話的で深い学びを可能にするアクティブラーニングとして3年生の演習で「新聞記者になる」実践をしている。前期は新聞を読んで休耕田活用など備後地域の希望が見られる記事を探し、現場を見学してはがき新聞を作成。記者に取材方法などを聞いた。後期は学習意欲を喚起できたと考えている。



國弘保明氏(川崎医福大講師)

スクラップ通じ親しみ

新聞を通して医療福祉の最新情報に触れるとともに文章力や読解力、コミュニケーション能力も養おうと、今年4月に医療福祉経営学科でNIEを実践した。新聞社から講師を招き、日本新聞協会作製の「ハッピースクラップ」を活用しての授業だ。新聞を読んで、誰かに見せることを意識しながら共感できる記事を選んでいる。



松井圭三氏(中国短大教授)

受講後、作文評価アップ

学生たちに日常的に新聞に親しんでもらおうと、本年度前期授業の全時間を使ってNIEの実践教育を行った。使用したのは「NIE社会福祉記事ワークブック」。全15章で、各章2本ずつの関連記事を掲載し、研究者と新聞関係者が執筆した解説と設問を加えた。社会福祉への知識を得ると同時に「考える力」「書く力」を発表する力の育成を目指したテキストだ。学習の成果を確かめようと、受講生に学んだ内容に関する400〜600字の作文を6回にわたり書いてもらった。その出来を100点満点で評価したところ、初回と6回目で平均点が6点近くも向上。NIEに一定の効果があることが確かめられたと思う。

